

リエント・アール・クラウドの本心 (2017年12月24日霊示) 担当:石田昭 2018年2月25日

- 1 総裁:エルカンターレの法を完成させる前段階として“魂の兄弟の意見”は必要である。
- 2 霊言:アトランティス文明の後継として「エジプト」、「古代インカ」、「北欧」の三流がある。「古代インカ」が滅び、紀元後に再興したが、中世にもう一度西洋の侵略で滅んだ。
- 3 宇宙との交流は「古代インカ」の方が進んでいた。地軸の変化で様子が変わっている。
現代科学は「地軸の変化」を認めない、ムー、アトランティスの沈没もオカルト。ラ・ムー大王の不機嫌の真因
- 4 高地に文明の理由は大陸沈没の衝撃から。偶然、星が良く見え宇宙人の飛来があった。
- 5 アトランティス時代の科学レベルに戻すのは難しく、「失われたもの」はかなり大きい。
- 6 土着の信仰はアニミズム、魂が高次元に上がるために「神官」として指導をしていた。
- 7 目に見えない信仰は言葉で説いても分からない、そこで地上に降りて人格神となる必要。
- 8 エルカンターレの全体像を地上の人間に理解させることは極めて困難(自分も含め)だから、至高神の存在を信じつつ、現代人が理解できる範囲の教えを信奉するしかない。
- 9 しかし、人工頭脳AIが出てきて、“機械信仰”が強くなるだろう。科学的な進化と道徳的な進化が同時進行していない。よって、第七の文明が滅びる可能性が高い。文明の消滅
- 10 今後、宇宙からの介入があると、それぞれの星の「メシア」の教えが違うために、国家の争いに宇宙人介入の可能性あり。幕末にイギリスが薩摩側、フランスが幕府側支援に回ったような現象。
- 11 二代目にあたる頃には難しい時代が来る。この世的に有用な技術という宇宙人の誘惑。
- 12 宇宙では時間が循環している。「未来の地球人」が実は「過去から来た宇宙人」である？
- 13 何種類かの宇宙空間と、宇宙時間が並行して走っている。別の選択で沈没しなかったアトランティス、ムーという時空間がある。メキシコ、桜島でUFOが地球内部に出入りの動画、「ラ・ムーの本心」では太陽内部で生存可能な生命体の言及、ファントム型人類、物質の原子変換など異次元科学の可能性。
- 14 「宇宙の時空間の多重構造」「パラレルワールドとしての地球の歴史、宇宙人と地球人の関係、文明実験のあり方」などを知るのはエルカンターレだけ。イエスもモーゼも知らない
- 15 全体として、エルカンターレが何をしようとされているのかは「エルカンターレの法」の確立を待つ。地球文明は何度も浮沈を繰り返していて、ムーでも宇宙技術があった。今地球史の折り返し点
- 16 マスコミが操作する日本の民主主義政治。「増税すべき」しか取り上げない密約、それ以外では財政再建できないという思い込み。トランプ大統領の“減税政策の成功”で日本も変わるのか。
- 17 一種の僭主政治になっている。誰が書いているのか不明のマスコミ論調で大臣も首になる。宗教を一切報道しないことでブロック・壁になっている。「ROも初代一代で、終わる」かも知れない。教えが散逸しないで遺せるか、新しい津波に呑みこまれる可能性もある。
ラ・ムーの本心では「絶滅された経験が強くある人の言葉だから、ほどほどに聞いたほうがいいよ」若干悲観的
- 18 宇宙からの来襲などで『最後の宗教』とならないためのアドバイス:現実に対処するのは唯物論の科学者、「神託」を降ろしても、対応するのは政治家。ROの弟子は圧倒的に不利。メディアの力を使わないと不可能、無理をすれば弾圧される。安穏な社会の異端者。
- 19 イスラムと中国の唯物論が問題で、中国が世界をリードし始めたときに危険。「宗教を信じない人たちの大群」が来るように見え、天変地異、大陸の沈没、「文明の消滅」が来るだろう。ラ・ムーの本心「日本も沈むかも、でも中国の姿勢が限度を超えたら、中国大陸の大陥没もありえる」
- 20 総裁:エルカンターレの“触手”の部分を明らかにした。今の予想から見ると、教えが広がるというよりは、それを巻物にして持って逃げるといった感じ、「世界各地で巻物を持って隠れる」の感じに近い。「隠者の時代」があるかも、やや悲観的だが、引き締めも大切。